

建築家からのメッセージ



山中文彦 ヤマナカ フミコ
●フィールドネット代表

1955年 長野県生まれ。フィールドネット一級建築士事務所・木の家づくりネットワーク代表。実家の材木店の木材と大工職人に囲まれて育つ。明治大学建築学科卒業後、大野勝彦氏に師事。建築設計監理、日本各地のまちづくり、木造住宅の研究開発を経て、1991年現事務所と木の家づくりネットワークを設立、現在に至る。

家をつくりたい方へのメッセージ

「心地よい木の家に住みたい」
そんな素朴な家づくりへの思いを、住まい手の個性を中心に据え、ともに考えながら新しい木の家として提案します。木材やさまざまな自然素材を吟味し、腕の良い職人の技を生かして、木の家づくりのネットワークによりります。耐震性、耐久性、断熱性、メンテナンス性など各種住宅性能が高い木の家を、流通マージンを省いた適正価格で実現します。

住宅の中で一番好きな場所は?

やはり家族が一緒に暮らす家の中心的スペースです。震災以降、家族の絆が求められています。木の家が家族にとって居心地の良い、暮らしやすい、落ち着けることが何よりも基本と考えます。その中心的な場を「ひろま」としてどのように実現するかに腐心しています。広さではなく、空間の質とも言うべきもので、家族の心が和む「ひろま」です。



窓の木格子の陰影が室内外を心地よくつなぐ

皮むき丸太の大黒柱を中心としたひろま

子どもたちの
秘密基地になるロフト収納



無垢の木のシステムキッチンとコンパクトな収納



ハイサイドライト窓
のあるフリースペース



[2F]

[1F]

- 設計データ**
- ▶ 設計面積…120.08m²(36.33坪)
 - ▶ 延床面積…95.84m²(29.00坪)
 - ▶ 1階/47.92m²(14.50坪) 2階/47.92m²(14.50坪)
 - ▶ 竣工年…2012年
 - ▶ 用途地域…第一種低層住居専用地域
 - ▶ 建ぺい率…40%
 - ▶ 容積率…80%
 - ▶ 構造…木造軸組み工法
 - ▶ 設計…フィールドネット一級建築士事務所
 - 〒156-0043 東京都世田谷区松原5-27-11-201
 - TEL:03-5301-2811 FAX:03-5301-2812
 - URL:<http://www.kinoie.ne.jp/> (木の家づくりネットワーク)
 - E-mail:kinoie@kinoie.ne.jp
 - ▶ 構造設計…諏訪設計事務所
 - ▶ 施工…家づくりネットワーク

他の設計作品



見沼の家
丸太の梁と吹き抜けの家



伊豆高原の家
音楽ホールのような平屋の家



東小金井の家
屋根緑化のビルトインガレージの家



雁行した切妻瓦屋根のシンプルな外観(以下すべて、撮影:垂見孔士)

ログハウスのような室内空間とどちらかに溶け込む木の家の外観を両立させるために、家を無垢の木の厚板で包み込む』木のパオとも言うべき『新・あぜくらの家』という設計コンセプトを提案しました。構造強度、断熱性、木のインテリアの三位一体の設計手法です。通過交通がなく近隣の子どもの遊び場にもなる広い道路空間を生かして、家の正面の向きを隣家の向きと90度異なる西側道路にしました。そのことで生活視線から隣家を消して西側の道路空間も家の敷地に取り込みました。西日の遮蔽は植栽と格子、外付けロールスクリーン、LOW-Eガラスの木製サッシでクリアしました。将来の個室化を可能とする和室コーナー、2階のフリースペースにより、家族構成の変化に対応できます。

構造強度・断熱性・木のインテリア

ログハウスのような室内空間とどちらかに溶け込む木の家の外観を両立させるために、家を無垢の木の厚板で包み込む』木のパオとも言うべき『新・あぜくらの家』という設計コンセプトを提案しました。構造強度、断熱性、木のインテリアの三位一体の設計手法です。通過交通がなく近隣の子どもの遊び場にもなる広い道路空間を生かして、家の正面の向きを隣家の向きと90度異なる西側道路にしました。そのことで生活視線から隣家を消して西側の道路空間も家の敷地に取り込みました。西日の遮蔽は植栽と格子、外付けロールスクリーン、LOW-Eガラスの木製サッシでクリアしました。将来の個室化を可能とする和室コーナー、2階のフリースペースにより、家族構成の変化に対応できます。

case 49

本体施工費……2,425万円
家族構成……夫婦+子供1人
場所……東京都調布市

新・あぜくらの家 調布

家を包み込む木の厚板で 無垢の木の厚板で

ログハウスのような木の家をつくりたい

がログハウスのままでは東京の市街地に馴染まないのでどうしよう、そんな思いを抱えた木の国・高山育ちの建築主さんから

の相談からスタートしました。敷地が面す

道路は幅には余裕があるものの西向きのロケーションで、敷地形状は奥が変形し

た台形です。南側は隣家の玄関が隣接し、北側隣家の窓が迫るなか、視覚的にプライバシーを確保しつつ、快適な環境をいかにつくるかが検討課題となりました。将来の家族構成の変化にも対応できることが要望されました。